

# 迫る凶行 サインは

## 平野ストーカー殺人 精神科医が分析

ストーカーは一方的な恋愛感情が突如、凶行に発展するケースがある。全国の警察が対策に取り組む中、大阪府警に相談していたスナック店員の女性が殺された。兆候をつかむサインはあったのか。危険度を測る警察庁のチェックリストを作成した精神科医の福井裕輝氏(44)に聞いた。

府警によると、殺人容疑で逮捕された大阪市平野区の無職松本隆容疑者(57)が、大阪府松原市のスナック店員井村由美さん(38)と出会ったのは昨年8月。井村さんの勤め先のスナックだった。数年前に妻と別れ、妻への傷害罪で執行猶予中の身。周囲に「寂しがり屋なんや」とこぼした。

## 会いたい 禁断症状

「会いたいのに会ってくれない」。禁断症状と言え。愛情と憎悪という相反する感情が同居する、これもよくみられる傾向だ。井村さんは翌2日、松原署に「しつこく電話やメールが来る」と相談。署は松本容疑者に

電話で口頭注意した。松本容疑者はその夜に署に電話し、「納得いかへん」と抗議したという。

「ストーカーは心に痛みを抱え、自己愛が強く、執着心も強いタイプが目立つ。井村さんへの一方的な好意

一方で、井村さんには「足首をねんざして歩くと痛いねん。それとタバコ始めた。由美と同じタバコやで」「このメールも警察に見せて逮捕してもらえ」とメールを送ったという。メールは2日午後8時半までに計33通になった。



福井裕輝氏 男女問題解決支援センター代表理事などを務め、ストーカー対策に取り組む。加害者に精神科医の診察を促す警察庁の取り組みに携わり、危険度を測るチェックリストを作成。各警察で導入が進む。

「身近な話題を振ったり、脅迫めいた文言を使ったり

「今回は、警察に相談したことが『売られた』と恨みを増幅させるきっかけの一つになったと考えられる。警察の介入後に逆上する事例はよくある。ストーカー行為が収まる時期は、関心が薄れたわけではなく、犯行の計画を立てたり断念したりと、葛藤する時期でもある」

「この事件を全て言い表した供述だ。蓄積した憎悪を表面化させたものの、今も一方的な愛情を抱いていることがうかがえる。一般的にストーカーの危険性を判断するには、その人物の精神面に立ち入らなければならぬ。愛情を語るそばから恨みを漏らすなど、重大事件に及ぶストーカーはサインを出す。相談を受ける人はこうした認識をもって対処するべきだ」

している。どうにかして相手の気持ちをひき、何でもいから反応を欲していることがうかがえる」

井村さんはトラブルを機に、3月中旬ごろスナックをいったん退職。署が4月2日に様子を探ねると「何もありません」と答えたという。これ以後、府警も遺族も松本容疑者からの接触は確認できなかったという。

## 行為収束でも葛藤

「今回は、警察に相談したことが『売られた』と恨みを増幅させるきっかけの一つになったと考えられる。警察の介入後に逆上する事例はよくある。ストーカー行為が収まる時期は、関心が薄れたわけではなく、犯行の計画を立てたり断念したりと、葛藤する時期でもある」

## 相談受ける側は 精神面踏まえて

「この事件を全て言い表した供述だ。蓄積した憎悪を表面化させたものの、今も一方的な愛情を抱いていることがうかがえる。一般的にストーカーの危険性を判断するには、その人物の精神面に立ち入らなければならぬ。愛情を語るそばから恨みを漏らすなど、重大事件に及ぶストーカーはサインを出す。相談を受ける人はこうした認識をもって対処するべきだ」

## 変わる警察の対策

警察が把握した昨年のストーカー被害は2万1089件。2000年のストーカー規制法施行以降で最多だ。昨年10月には東京都三鷹市で女子高校生が殺害される事件が起きた。警察庁は昨年12月、全国の警察に対応強化を指示し、重大犯罪に及ぶ危険性を測るチェックリストを配布した。加害者の行動や性格など41項目を被害者から聞き、4段階で判定する。今年4月までに42都道府県警が導入。大阪府警は昨年7月に独自に作成した。警察庁は逮捕や警告などによる従来

「強い者の対策怠る」被害者の夫が批判 井村さんの夫(57)は「ストーカーによる事件がなぜ繰り返されるのか」と無念を募らせる。「警察は弱い者(ストーカー被害者)への対応しかしていない」と述べ、容疑者の身柄を拘束するなどの措置をとらなかった府警の対応を批判。「強い者(加害者)の対策を怠ったから事件を防げなかった。殺されるのを待っていたようなものだ。悔しさと怒りが収まらない」と語った。

## ■松本容疑者が送ったとされるメールの内容

スナックに入店禁止後 「殺される前に警察に電話してや 頭冷やす時間を最後にくれや」 (3月1日午前2時)

松原署の口頭注意後 「昨日飲んで帰り道、階段で足首をねんざして歩くと痛いねん。それとタバコ始めた。由美と同じタバコやで」 (2日午後4時38分)

「このメールも警察に見せて逮捕してもらえ」 (同5時5分)

「とても納得できへん。あした松原警察に話聞いてもらう」 (同8時6分)

「いま松原警察の担当に電話して明日の約束したで。●●法律事務所相談して警察に行くわ」 (同8時32分)

※大阪府警への取材による



「この事件を全て言い表した供述だ。蓄積した憎悪を表面化させたものの、今も一方的な愛情を抱いていることがうかがえる。一般的にストーカーの危険性を判断するには、その人物の精神面に立ち入らなければならぬ。愛情を語るそばから恨みを漏らすなど、重大事件に及ぶストーカーはサインを出す。相談を受ける人はこうした認識をもって対処するべきだ」

警察が把握した昨年のストーカー被害は2万1089件。2000年のストーカー規制法施行以降で最多だ。昨年10月には東京都三鷹市で女子高校生が殺害される事件が起きた。警察庁は昨年12月、全国の警察に対応強化を指示し、重大犯罪に及ぶ危険性を測るチェックリストを配布した。加害者の行動や性格など41項目を被害者から聞き、4段階で判定する。今年4月までに42都道府県警が導入。大阪府警は昨年7月に独自に作成した。警察庁は逮捕や警告などによる従来